

折に触れ 四字熟語

NO. 108 『令聞令望』 れいぶん れいぼう

< 意味 > 優れたほまれ。よい評判。

< 出典 > 「詩経」<大雅、卷阿>

「・・・

顛顛印印	如圭如璋	顛顛印印として	圭の如く璋の如く
令聞令望	豈弟君子	令聞あり令望あり	豈弟の君子は
四方爲綱		四方 綱と爲す	

・・・」

通 釈：『(顔色)和やかに(その徳は)充ち盛んに、圭や璋のように(気高く)、善き誉れと名望がある。楽しみ和らぐ祖先の御霊は、四方の国が手本とする。』

語 釈：「顛顛」は顔色和やかなさまを形容する語。「印印」は充ち盛んなさまを形容する語。「圭」は柄形の玉。「璋」は圭を縦に割った玉製の笏。圭の如く璋の如しとは気高いさまの比喩。「豈弟」は楽しみ和らぐこと。

一 言：新元号シリーズ その1

新しい元号が「令和」になると発表がありました。

どんな漢字が使われるのかいろいろ取りざたされていましたが、「令」の字は意外だったようです。この四字熟語でも「善き」と解釈されていますが、私たちも令嬢、令婦人の熟語を目にすることがあります。なお、はねる、はねない等の書体についてもニュースで取り上げられていましたが、「令」と「令」どちらでも構いません。「令」の方は「小学校国語学習指導要領」の「別表 学年別漢字配当表」にある漢字書体に従って作られている「教科書体」です。

参照文献：明治書院「新釈漢文大系」詩経・下 岩波書店「四字熟語辞典」